



令和 2 年 4 月

市内へのお出かけは宿南ふれあい号で！

宿南ふれあい号「ダイヤ改正」について

いつも、宿南ふれあい号をご利用いただきありがとうございます。

令和 2 年 4 月から 14 時 45 分 寄宮行きが廃止となり「1日4便」の運行となりました。
新運行ダイヤを確認いただき、お間違えのないようにお願いします。

(新)運行ダイヤ

【運行日】月・水・金

(ただし祝祭日、年末年始(12/29~1/3)は運休)

令和 2 年 4 月 1 日改正

停留所	1便 寄宮行き	2便 寄宮行き	3便 青山行き	4便 青山行き
青山	7:15	11:35	12:37	15:48
青山二又	7:17	11:37	12:35	15:46
青谿書院前	7:18	11:38	12:34	15:45
奥三谷	7:30	11:50	12:27	15:38
中三谷	7:31	11:51	12:26	15:37
口三谷	7:32	11:52	12:25	15:36
門前下	7:36	11:56	12:21	15:32
門前	7:36	11:56	12:21	15:32
宿南小学校	7:37	11:57	12:20	15:31
三谷口	7:37	11:57	12:20	15:31
宿南こども園	7:38	11:58	12:19	15:30
町中	7:39	11:59	12:18	15:29
町公会堂前	7:39	11:59	12:18	15:29
寄宮	7:40	12:00	12:17	15:28



みんなで乗って
公共交通を
守ろう！

【お問合せ先】

養父市役所 土地利用未来課

(電話) 079-664-1410

宿南ふれあい倶楽部

(電話) 079-662-3400



スポーツ21宿南

クラブ紹介 no. 1



グランドゴルフクラブ



スポーツ21宿南GGクラブ。メンバーただいま12名

ナイスショット!! わあ、スゴイ!!ホールインワン第1号!!と賑やかに楽しく練習を重ねています。

春から新メンバーも参加予定で、まずは健康維持のため、また、認知症予防、そして外部大会に参加する事で、多くの方達との交流も楽しみに、皆笑顔で頑張っています。

1ヶ月、第1、第3土曜日に練習日を持ち、八鹿ドームと宿南グランドを利用させていただいています。

令和元年度は、春秋の自主大会をはじめ、いきいきドーム杯予選、決戦、スポーツ21養父市交流大会、また、スポーツ21但馬大会にも参加させていただき、この大会では思いもよらない優勝というご褒美までいただく事が出来ました。

皆様どうか一度お立ち寄りください。メンバー一同大歓迎です。

谷口 珠子



お知らせ

4月 2日～	喫茶ひまわり臨時休業（新型コロナウイルス感染拡大予防のため）
4月24日（金）	宿南地区自治協議会総会
4月26日（日）	全戸日役



草庵先生紹介

日記 19



草庵の肩をもむ
妻の久
宮崎和夫さん作

池田草庵は、妻ともよく話す時間を持っていた。

「検読5人。授読1人。片山（実家）に行ってから、しばらくして帰る。講義は『小学』。1人の塾生の質問を受ける。夜、読書をしばらくしてから、盛之助や妻と話す。この日の読書は『龍溪集』5ページ。二更（午後10時ころ）就寝」（嘉永元〈1848〉年8月21日）

講義や読書で忙しい草庵であったが、妻の久とはよく話した。それは今までにない楽しい時間だったのだろう。久が書院にやって来た翌月の日記の中から抜き出してみる。

「夕方から妻とだんらん、対話する」（同年9月3日）「夜、妻と話す」（同年9月7日）、「午前、妻とだんらん、対話する」（中略）。夜、また、雑話する」（同年9月9日）などと続いている。

対話だけではない。これは翌年の日記だが、「夜、妻に肩たたきをしてもらう」（嘉永2〈1849〉年4月3日）というような日もある。今まで、「若い塾生に肩たたきをさせる」ということはあったが、今度は妻がやってくれるのだ。

しかし、妻とは楽しい対話ばかりではない。結婚から5年ほど経ってからのことである。

「妻と対話する。深く反省させられる所があった。普段のいろいろな思いやりのない自分の言動に気づく。改めていかなければならない」（嘉永6（1853）年1月21日）

妻との対話を通して、平素の自分の言動に思いやりのなかったことに気づいているのだ。

こういう草庵について、草庵亡き後、久は次のように語っている。

「（夫は）普段の行いに裏表や陰日なたのない人だった。私に対しても、大事なお客様に接するのと同じような態度だった」（豊田小八郎『但馬聖人』より）

草庵は自分の生き方として、「慎独」（独りを慎む＝どんな時でも自分の身を慎み、間違ったことをしない、の意）を常に心がけていた。妻との間でも草庵は「慎独」の生き方を大事にしていたのだ。

（提供 朝日新聞社）